

ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語コースに参加して

野田 瑞葵

私はこの度東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センターの奨学助成金を活用し、2022年10月から2023年2月にかけて、ゲーテ・インスティトゥート東京（以下、ゲーテ）のドイツ語講座に参加した。今回私が受講したのは、スタンダード8という講座で、これは週2回・1日4時限（1時限＝45分）の授業を8週間行うものである。教科書はHueber社のMenschenを使用した。この教科書はレッスンごとに面接やクレーム、ペット、会社の行事など、日常的なテーマが据えられ、四技能の学習項目がバランス良く配置されている。この教科書に加えて、適宜、講師の自作プリントや、YouTube、Deutsche Welleの動画など多様な教材が用いられた。授業はネイティブの講師のもと、8名程度の少人数で行われた。生徒は年齢も職業も様々であったが、ほとんどの人に共通していたのはドイツへの渡航経験であった。私はドイツに渡航したことがなく、ドイツ人と接すること自体初めてであったが、講師は、そのような私でも話しやすい雰囲気を作ってくださり、リラックスして授業に臨むことができた。

授業の進め方で印象的であったのは、コミュニケーションの重視である。そもそもテーブルが円形で、3-5人程度がそれを囲んで授業が進行されるということからも想像できるが、度々ペアワーク・グループワークが指示され、ロールプレイングやプレゼンテーションなどを行うのである。このような活動が、授業の内容理解のための補助的な役割ではなく、むしろ授業の中心に据えられていることは、私にとって意外な発見であった。また、講義というものの存在自体、明確にあるとは言えないかもしれない。たしかに文法事項等では講師による解説があるものの、その時間ですら生徒が一方向的に聞くことはほとんどなく、積極的に発言することを促される。そもそも授業の最初のアイドリングトークですら、生徒の発言をもとに進む。とにかくドイツ語を話すこと・能動的に授業に参加することを求められる環境は、ゲーテの大きな特徴であるといえる。こうした授業スタイルは私には新鮮に感じられ、このような楽しい語学の授業があるのかと驚くほどであった。

こうした楽しさや充実感に加えて、ドイツ語の運用能力も向上したと感じている。これまで私は大学で主に読解や文法を中心にドイツ語学習を行ってきた。そして今回、ゲーテの受講を通して、まだまだ未熟ではあるものの、以前よりもドイツ語の音声聞き取れるようになり、表現の幅も広がったと思う。特に、話す・書く能力は一人では伸ばしづらいため、ゲ

ーテのコミュニケーション中心の授業が効果的に作用したのではないかと感じている。また、大学で学ぶような専門的・学術的なドイツ語とは異なり、日常に即した身近なテーマを扱うため、普段実生活で使う表現への理解が深まり、その運用能力を向上させることもできたように思う。また、ゲーテの授業中に、大学の授業の成果を感じることもあった。文法の問題でクラスメイトが苦戦している中、私自身はそれほど躓くことなく理解できたのである。ゲーテの授業だけでドイツ語学習を行っているクラスメイトからは、大学で体系的に文法を学んだという経験を羨ましがられることもあった。このことは、やはり文法という壁は避けては通れないものであり、それを繰り返し大学の授業で学ぶことができたことは大きな財産であると再認識するきっかけとなった。

また、当初想定していなかった成果には、クラスメイトからの刺激があった。先述の通り、クラスメイトはドイツへの興味関心と日本で暮らしていること、あとは優しく親切な人ばかりであったこと以外、ほとんど共通点がなかった。高校生から 70 代までが同じテーブルで学び合う光景は大学ではありえないであろう。そして、ドイツに渡航した経験がある人が多いと言っても、渡航した目的も、そもそもドイツ語を学んでいる理由も本当に人それぞれである。海外の大学に進学しようと考えている高校生、プロの音楽家や調律師を目指して留学を予定している大学生・大学院生、過去にドイツで働いた経験があり、再びドイツでの仕事を念頭に置いている社会人、ドイツの大学での研究を視野に入れている研究者など、将来設計に基づく比較的明確な目的意識を持つ人もいれば、ドイツが好きでドイツ語を教養として学んでいる人、過去にドイツに留学したことがあり、ドイツ語を忘れないために授業に参加するという人もいる。

そのような多様な目的・バックグラウンドを持ったクラスメイトと接することはとても楽しく、刺激的であった。将来設計が明確でない私にとって、夢に向かって努力しているクラスメイトと話すことは自分自身を見つめ直すきっかけとなり、ドイツ語をなぜ学ぶのか改めて考え、学習のモチベーションを高めることにもつながった。社会人の方には授業の休憩時間や帰り道に将来に関してアドバイスをもらい、参考にさせていただくことも多くあった。ドイツに留学していたクラスメイトには留学時代の思い出話をたくさん聞かせてもらったし、もはやドイツ語とは何の関係もないが、年長のクラスメイトの姿を見て、話しやすい雰囲気づくりについて学ぶこともあった。語学学校のクラスは一期一会で、二度と同じメンバーになることはないが、だからこそこうした貴重な学びや刺激が得られたと感じている。

このように、ドイツ語コースを通して、日常的に使われる語学力を向上させることができたと感じており、さらに同じドイツ語学習者からの新たな刺激も得られた。授業を通して得られたモチベーションをもとに、引き続きドイツ語学習を続けていきたいと思う。また、私はこのコースに参加した当初、自分はまだ大学時代にドイツに行くことはないかもしれないと感じていた。しかし、今は、このコースに参加したからこそ、短期にはなるが必ず来年度中にドイツに渡航しようと考えている。その時には、ゲーテのクラスメイトに教えてもらった留学情報をぜひ参考にしたいと思う。

(2023 年 5 月 28 日受理、2023 年 5 月 30 日公開 ※DESK-Miszellen 編集委員会記入)